

令和3年3月24日

令和2年度 三重県いなべ市からの委託事業に関する活動報告書

令和2年度に貴市から受託した業務につきまして、下記の通り報告いたします。

記

1. 委託事業名

立田グリーン・ツーリズム委員会における自立・自走体制構築支援研究業務

2. 目的

立田グリーン・ツーリズム委員会が行うグリーン・ツーリズムの活動に大学生の若者目線を取り入れ、自立・自走した体制を構築するため、支援を行う。

3. 立田グリーン・ツーリズム委員会からの要望

- (1) 遊学祭における明行寺での紙芝居上演
- (2) 立田公園内の遊学歩道にある恋（こが）れ松跡をパワースポットとして注目されるようモニュメントを設置し、PRする

上記の通り、令和2年度 京都産業大学との連携活用による自立・自走に向けた体制構築支援要望を受けて、本学の学生の主体性、積極性、創造性、コミュニケーション能力の高さなどの強みを活かし、次の活動を行った。

4. 実施した活動

- (1) 紙芝居「江戸堤」の絵本および読み聞かせ動画作成
- (2) 恋（こが）れ松跡のモニュメント作成・設置
- (3) 恋（こが）れ松跡のPRグッズ作成
- (4) 業務打合せ等

5. 活動の成果

- (1) 紙芝居「江戸堤」の絵本および読み聞かせ動画作成

本事業は、遊学祭当日、京都産業大学の学生が作った地元伝承の紙芝居を学生が読み聞かせを行い、地域理解の促進から地域の良さを再認識し、地元への愛着醸成を図ることが目的である。コロナ禍のために遊学祭が中止となったため、初期の目的を達成

することの可能な代替事業を検討した結果、以下の事業を実施した。

- ①紙芝居を絵本化し、明行寺ならびに地区の集会所に配置する。そのために、絵本 40 部を作成。
- ②紙芝居の読み聞かせ動画を作成し、オンラインでの視聴を可能にする。そのために、動画を作成した。



▲絵本「江戸堤」



▲読み聞かせ動画

(2) 恋（こが）れ松跡のモニュメント作成・設置

若者に地区の魅力を発信し、都市部の若者の地区への来訪増加から地域交流の促進を図ることを目的に、立田公園内の遊学歩道にある恋（こが）れ松跡をパワースポットとして注目されるように若者の目を引くようなモニュメントを作成・設置した。



▲恋（こが）れ松跡のモニュメント



(3) 恋（こが）れ松跡の PR グッズ作成

恋（こが）れ松跡をパワースポットとして PR するため、以下のグッズを作成した。立田公園内の秀真竹炭工房の商品を販売する際に使用し、地域資源である竹炭と恋（こが）れ松跡をセットで PR することで、効果的な情報発信の仕組みづくりを行った。

- ①紙 袋 2 種類、各 250 枚

②シール 2種類、各500枚



▲PRグッズの紙袋とシール

(4) 業務打合せ等

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、現地調査や対面での打合せが不可能なことから主にオンラインでの会議を行った。現地での調査も含めて、詳細は以下に記す。

○7月30日 立田グリーン・ツーリズム委員会 委員長とオンライン会議

- ・新型コロナウイルスの流行による遊学祭の中止について。
- ・目的を達成するための今後の活動について。
- ・新型コロナウイルス流行下でも実現可能な施策の検討について。
- ・打ち合わせを受け、学生はどのような施策が可能か検討を開始。

○9月10日 立田グリーン・ツーリズム委員会 委員長とオンライン会議

- ・学生が考案した企画案の内容およびそれらの検討の依頼について。
- ・資料として企画書を立田地区自治会長に郵便で送付することについて。

○10月14日、16日 立田グリーン・ツーリズム委員会 委員長とオンライン会議

- ・学生の企画案についての地域での検討結果について。
- ・検討結果に基づき、今後事業をどのように具体的に進めるかについて。
- ・打ち合わせを受け、学生は事業の具体的な進め方を検討し、順次作業を開始。

○10月22日 喫茶「やまびこ」店長（立田グリーン・ツーリズム委員会委員）とオンライン会議

- ・恋（こが）れ松跡モニュメントのデザイン案について。
- ・恋（こが）れ松跡PRのグッズ制作の具体化の方法について。

- ・モニュメントの設置場所について。とくに、立田公園内の秀真竹炭工房の近傍の可能性について。
- ・学生は、恋（こが）れ松跡モニュメントのデザインや、恋（こが）れ松跡 PR グッズについて企画案を作成。

○11月15日 立田地区にてフィールドワーク

- ・立田グリーン・ツーリズム委員会 委員長、喫茶「やまびこ」店長と学生4名、教員1名が参加。
- ・恋（こが）れ松跡モニュメントのデザインおよび設置場所について打ち合わせ。
- ・立田公園内にて、恋（こが）れ松跡モニュメントの設置場所について現地調査。
- ・同公園内の秀真竹炭工房・主催者と恋（こが）れ松跡モニュメントのPR方法について協議。秀真竹炭工房がモニュメント設置場所の候補地の近隣に位置し、またいくつものイベントを企画・運営することで立田地区の観光振興の中心となっていることから、同工房とのコラボレーションを通じて恋（こが）れ松跡モニュメントをPRすることとなった。
- ・フィールドワークでの打ち合わせと調査に基づき、学生は、恋（こが）れ松跡モニュメントのデザインと恋（こが）れ松跡 PR グッズの詳細について、さらに詳しい検討を進めた。

○12月3日 立田グリーン・ツーリズム委員会 委員長とオンライン会議

- ・紙芝居「江戸堤」の絵本の具体的な配布方法について。
- ・打ち合わせに基づき、学生は絵本の配布方法や印刷部数について検討。

○12月27日 立田グリーン・ツーリズム委員会 委員長とオンライン会議

- ・恋（こが）れ松跡モニュメントのデザインおよび今後の作業の進め方について。
- ・モニュメントのデザインの原案の郵送について

○1月12日 秀真竹炭工房家主とメールにて打ち合わせ

- ・恋（こが）れ松跡モニュメントのPRグッズの紙袋とシールのデザインについて
- ・秀真竹炭工房家主の意見に基づき、学生は紙袋とシールのデザインについて検討を進めた。

○1月26日 秀真竹炭工房家主とメールにて打ち合わせ

- ・恋（こが）れ松跡モニュメントのPRグッズの紙袋とシールのデザインについて
- ・秀真竹炭工房家主の意見に基づき、学生は紙袋とシールのデザインについて再度検討を進めた。

○3月9日 立田地区にて恋（こが）れ松跡モニュメントの現地視察

- ・恋（こが）れ松跡モニュメントの現場確認と事業完了（設置工事は2月25日）の報告のため、地区を訪問。



▲11月15日（日）フィールドワークの様子

6. まとめ

本年度は、コロナ流行のため活動予定を大幅に変更せざるを得なかった。その中で、地域との密接な協働のもと、地域の要望を実現するために適切な成果を得ることができた。

要望（1）については、遊学祭がコロナのため中止となり、紙芝居の読み聞かせを実施する機会は得られなかった。しかしながら、絵本と動画という形で、コロナ流行下でも地域住民に地元への愛着醸成を図ることのできる適切な成果を得ることが出来た。

要望（2）については、学生の発案した独創的なデザインの下、恋愛パワースポットとして適切な作品を設置することができた。またそのPRについても、地区の協力の下、効果的なPR体制を構築することができた。

他方、残された課題として次の点をあげることができる。要望（1）については、絵本や動画を作成したので、今後は地域の方にこれらの作品に効果的にふれていただく機会を作る必要がある。コロナ終息後は、地域行事などの機会に積極的に活用されることが期待される。要望（2）については、モニュメントの設置により、若者向けのアピールポイントを立田公園内に追加することができた。だがそれを周知させることではじめて、地区の関係人口増加につなげることができる。今後はさまざまな形で、モニュメントや秀真竹炭工房を含む立田公園の魅力を広く広報していく必要がある。

以上